

第2期札幌市スポーツ推進計画（案）

2024年度～2033年度

【概要版】

札幌市

令和6年（2024年）〇月

第2期札幌市スポーツ推進計画〈概要版〉（案）

目次

第1章 第2期札幌市スポーツ推進計画の策定について	1
第2章 第2期札幌市スポーツ推進計画の策定にあたって	2
第3章 札幌のスポーツの現状と課題	4
第4章 第2期札幌市スポーツ推進計画において取り入れる視点	7
第5章 第2期札幌市スポーツ推進計画の方向性	8
第6章 目標達成に向けた方針・施策	9
第7章 計画推進のための取組	16

～「スポーツ」とは～

スポーツ基本法の前文では、「スポーツ」について、次のように記載されています。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、
自律心その他の精神の涵養^{ひんよう}等のために
個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動

スポーツには、することによる楽しさや喜びだけではなく、心身の健全な発達、体力の保持増進、健康寿命の延伸など様々な効果があります。

また、スポーツは、多様性・包摂性の促進や共生社会の実現、地域・経済の活性化にも貢献するものであり、個人の心身への好影響に加え、地域・社会の課題解決に寄与すると考えられます。

そのため、本計画においても、スポーツとは、競技のようなルールに則り他者と競い合うものだけではなく、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行われるものであり、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、また気晴らしや楽しみのための身体を動かすレクリエーション活動なども含むものとしています。

1 計画策定の背景

札幌市では、市民のスポーツへの関わり方の広がりなどを背景に、平成15年（2003年）3月に「札幌市スポーツ振興計画」を策定し、「する・みる・支える」という3つの視点から、市民が様々な機会であらゆるスポーツに親しむことができるように、スポーツ施設の整備、イベントや競技大会の開催・誘致等を行ってきました。

その後、国が策定した「第1期スポーツ基本計画」や、札幌市が策定した「まちづくり戦略ビジョン」の考え方などを踏まえ、平成26年（2014年）2月には、札幌市スポーツ振興計画を引き継ぐ計画として、「札幌市スポーツ推進計画（以下「推進計画」という。）」を策定しました。

また、計画の中間年の令和元年（2019年）7月には、国が第2期スポーツ基本計画を策定したことや、オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致表明、国際的スポーツイベントの開催決定、「さっぽろグローバルスポーツコミッション」の設立、スポーツ局の新設など、札幌市を取り巻くスポーツ環境についても大きく変化していること、さらには超高齢社会の到来といった、社会情勢も変化していることを踏まえ、推進計画の改定版（以下「改定版」という。）を策定しました。

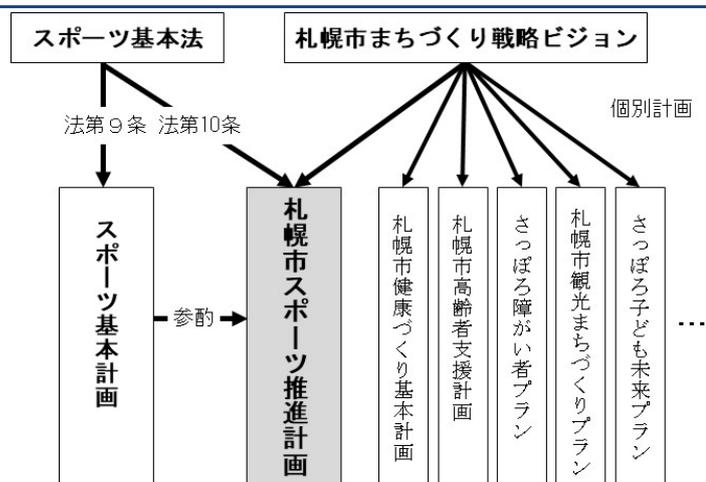
その後、国では令和4年（2022年）3月に第3期スポーツ基本計画が策定されたところです。

2 計画策定の目的

本計画は、市民が、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、それぞれの関心、適性、ライフスタイル等に応じてスポーツに参画する環境を整備し、スポーツの力をもって、青少年の健全育成、生涯を通じた健康の維持・増進、共生社会の実現、地域コミュニティの再生、地域・経済の活性化、そして札幌の活力の創造に寄与することを目的として策定しました。

3 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画であるとともに、札幌市のまちづくりの総合計画である、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の個別計画として位置づけられるものです。



4 計画期間

本計画の計画期間は、令和6年度（2024年度）から令和15年度（2033年度）までの10年間とし、中間の5年目を目途に見直しを行うことを想定しています。

1 国の動向（第3期スポーツ基本計画の策定）

令和4年（2022年）3月 「第3期スポーツ基本計画」策定

2 社会情勢の変化

・超高齢社会の進行

令和元年（2019年）における札幌の男性の平均寿命は81.31歳、女性の平均寿命は87.32歳まで延びていますが、健康寿命は男女共に全国平均（男性72.68歳、女性75.38歳）を下回っている状況であり、健康づくり等の取組を強化する必要があります。

図表3 札幌市民の「健康寿命」と「平均寿命」



＜資料＞厚生労働省「健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究」、札幌市

・価値観等の多様化

グローバル化や少子高齢化、多文化共生などの進行により、価値観やライフスタイルが多様化しており、個々人が多様性を受け入れ、尊重するとともに、相互に理解し合うことにより、共生社会を実現していくことが求められています。

・新型コロナウイルス感染症の流行

新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナウイルス」という。）は、日常生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼし、スポーツ分野においても、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響等が生じましたが、その一方、改めて、スポーツが私たちの生活や社会に活力を与えるなどの効果を持つ、重要なものと再認識されたところです。

・環境問題への対応

地球温暖化による気温上昇などの影響により、スポーツイベントの開催やウィンタースポーツの実施が困難になることが世界的に危惧されており、環境保護や気候変動対策の推進はスポーツの持続可能性確保にとっても重要な課題となっています。

また、競技施設の建設による環境破壊やスポーツイベント時のごみの排出及び食品ロスなど、環境問題にもたらす影響も指摘されています。

3 札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化

・第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの策定

令和4年（2022年）10月に「第2次まちづくり戦略ビジョン〈ビジョン編〉」を、令和5年（2023年）10月に「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン〈戦略編〉」を策定しました。

【スポーツ分野のまちづくりの基本目標】

- ① 世界屈指のウインタースポーツシティ
- ② 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち

・オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致

昭和47年（1972年）のオリンピック冬季競技大会から40年以上が経過した平成26年（2014年）11月に、札幌市は再びオリンピックを開催するとともに、初のパラリンピックを開催しようと大会の招致を表明し、招致に向けた機運醸成や市民対話をはじめとした市民理解の促進等の招致活動を進めてきましたが、コロナウイルスや東京2020大会の諸問題なども重なり、招致に対する市民の理解を十分に広げることができず、大会実現には至りませんでした。

今後は、ウインタースポーツの一層の振興や、国際大会誘致を積極的に進めていくとともに、大会の招致・開催により加速化を期待していたまちづくりの推進に引き続き取り組んでいきます。

・国際的スポーツイベントの開催

東京2020大会のサッカー、マラソン、競歩競技などの国際的スポーツイベントを札幌で開催したことで、市民が世界トップレベルのスポーツを観戦する機会が多く得られ、市民の「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ機運の向上に加え、大会開催のノウハウを蓄積することができました。

・新たなスポーツの発展

近年、BMXやスケートボード、ブレイキン等のアクションスポーツやeスポーツ（ヴァーチャルスポーツ）といった新たなスポーツが広がりを見せています。

・北海道のスノーリゾートとしての人気の高まり

ニセコに代表される北海道のスノーリゾートに世界的なブランド力があるという状況を踏まえて、札幌市でも、令和3年（2021年）11月に、「スノーリゾートシティS APPORO推進戦略」を策定し、スノーリゾートとしてのブランド化の推進、インバウンドを始めとした観光客の増加等による冬季の観光消費拡大を目指しています。

4 計画策定の必要性

国の第3期スポーツ基本計画策定などの状況を踏まえて、札幌市では、札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化や現状を把握し、今後の取り組むべき方向性や成果指標などを定めるために、新たなスポーツ推進計画を策定する必要があります。

1 札幌市スポーツ推進計画改定版の推進状況

【3つの目標】

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

【方針1】ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

【方針2】スポーツを通じた健康増進

【方針3】様々な形・場でのスポーツ参加を促進

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

【方針4】スポーツを通じた共生社会の実現

【方針5】スポーツを通じた経済・地域の活性化

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

【方針6】「さっぽろ」の魅力を世界に発信

【方針7】世界が憧れるウィンタースポーツの拠点都市へ発展

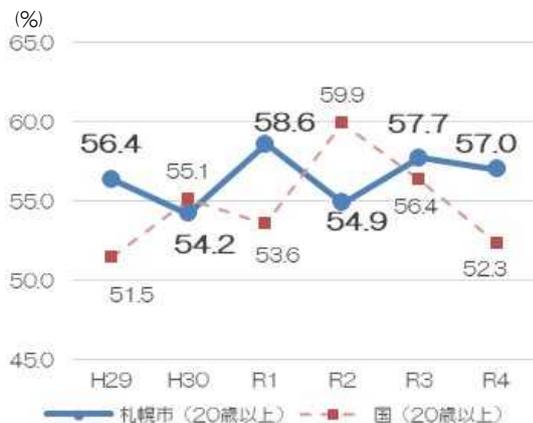
【成果指標の達成状況】

○スポーツ実施率（20歳以上・週1回以上）

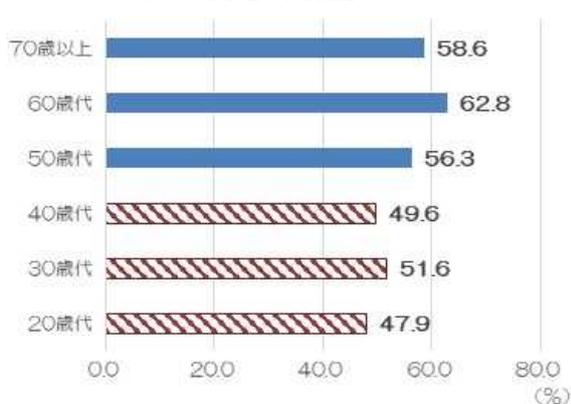
平成25年度	平成29年度	令和4年度	目標（令和4年度）
42.1%	56.4%	57.0%	65.0%

●札幌のスポーツ実施率の経年変化をみると、平成25年度（2013年度）の42.1%から、平成29年度（2017年度）には56.4%と増加してきましたが、その後は増減を繰り返しながら横ばいで推移しており、令和4年度（2022年度）は57.0%となっています。

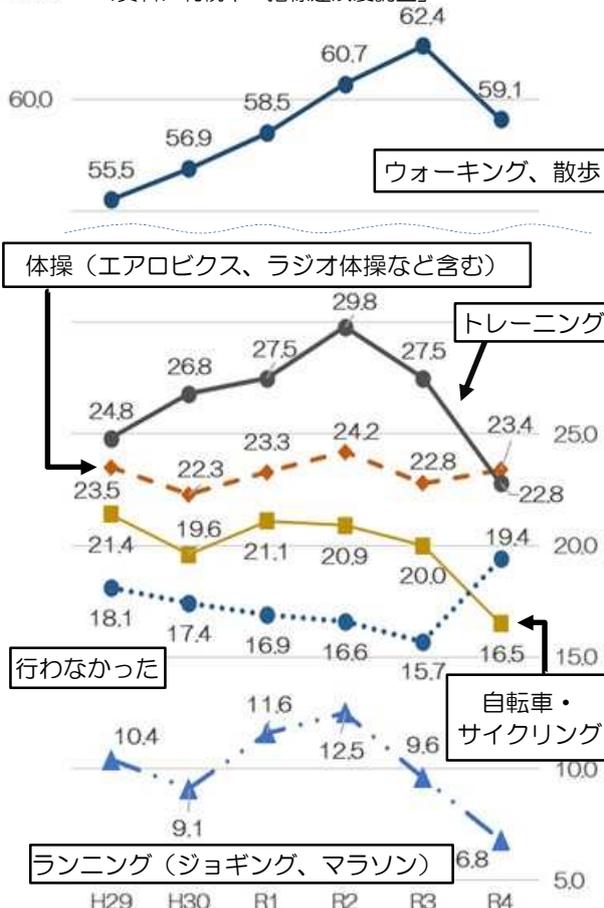
スポーツ実施率推移（国との比較）
＜資料＞札幌市「指標達成度調査」



令和4年度年代別スポーツ実施率
＜資料＞札幌市「指標達成度調査」



種目別スポーツ実施率推移（上位種目）
＜資料＞札幌市「指標達成度調査」



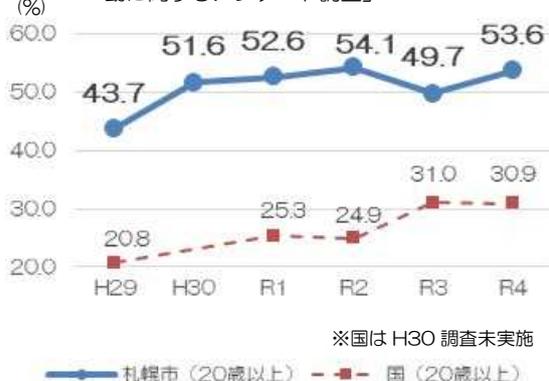
○スポーツ実施率（障がい者・20歳以上・週1回以上）

平成 29 年度	令和 4 年度	目標（令和 4 年度）	国の目標値（参考）
43.7%	53.6%	50.0%	40.0%

●札幌における障がい者スポーツ実施率の経年変化をみると、平成 30 年度（2018 年度）から令和 2 年度（2020 年度）まで目標値を超える 50%台の実施率で推移しており、令和 4 年度（2022 年度）は 53.6%の実施率となり、目標値を達成しました。

【参考：国、札幌市のアンケート調査手法の違いについて】
 ○国：インターネット調査会社が保有するリサーチモニターに対する無記名のインターネット方式での調査。
 ○札幌市：障がい者手帳を保有する 18 歳以上の市民に対し、郵送で実施。

障がい者スポーツ実施率推移（国との比較）
 <資料>札幌市「令和 4 年度 障がい者の運動などの活動に関するアンケート調査」



○ウィンタースポーツ実施率

平成 25 年度	平成 29 年度	令和 4 年度	目標（令和 4 年度）
24.9%	20.1%	18.9%	25.0%

●ウィンタースポーツ実施率の経年変化をみると、平成 29 年度（2017 年度）の 20.1%から横ばいで推移しており、令和 4 年度（2022 年度）は 18.9%と、目標値を達成できておりません。

ウィンタースポーツ実施率推移
 <資料>札幌市「指標達成度調査」

H29	H30	R1	R2	R3	R4
20.1	21.0	18.6	20.5	19.5	18.9

○直接スポーツ観戦率（18歳以上・年1回以上）

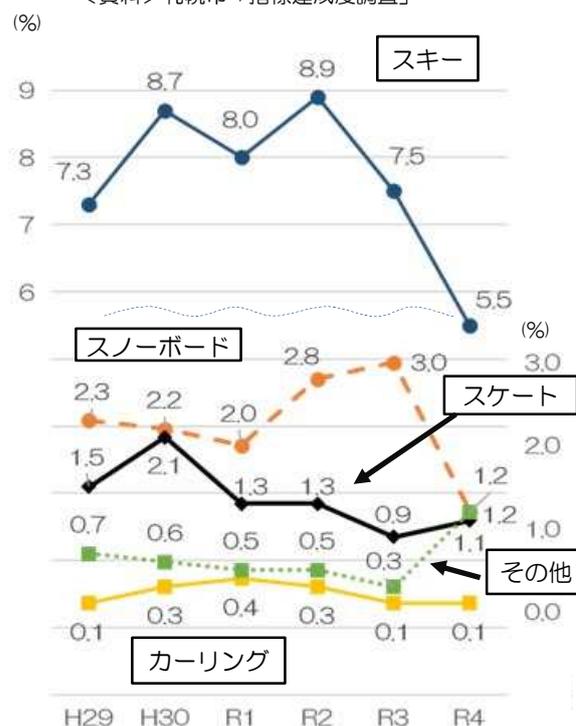
平成 29 年度	令和 4 年度	目標（令和 4 年度）
43.6%	32.3%	50.0%

●令和元年度（2019 年度）までは 40%前後ですが、令和 2 年度（2020 年度）以降は、コロナウイルスの影響によるスタジアムの入場制限などもあり、20%~30%台にまで下降しており、目標値は達成できていません。

直接スポーツ観戦率推移<資料>札幌市「指標達成度調査」



種目別ウィンタースポーツ実施率推移
 <資料>札幌市「指標達成度調査」



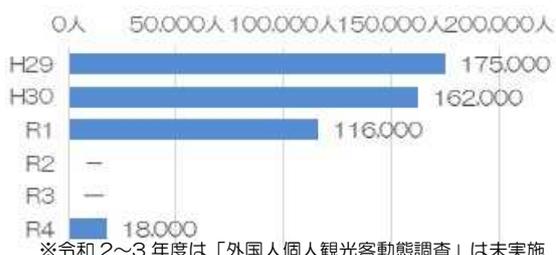
○ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客（1月～3月）

平成 29 年度	令和 4 年度	目標（令和 4 年度）
175,000 人	18,000 人	98,000 人（※）

※ コロナウイルスの影響を踏まえ、目標値を 250,000 人から変更！

- 平成 29 年度（2017 年度）は 175,000 人となっていますが、コロナウイルスの世界的な流行が影響し、令和 4 年度（2022 年度）には 18,000 人と大幅に減少しています。

ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数（1～3月）の推移＜資料＞札幌市「外国人個人観光客動態調査」



【主な課題のまとめ】

【目標 1 関連（スポーツ実施・ウインタースポーツ実施・スポーツボランティア）】

スポーツ実施

- 市民の多様なニーズに応じたスポーツ機会の充実や創出に取り組んでいく必要性。
- 実施率の高いウォーキング等の主に屋外で行う運動の冬期間のスポーツ機会の確保。
- 身近な場所で、仕事や子育ての合間などにスポーツを実施できる場所、気軽にスポーツに参加できる機会、一人で気軽に行える運動・スポーツの推進が必要。
- 健康寿命延伸には、健康・体力づくりを目的としたスポーツ参加機会の充実が必要。

ウインタースポーツ実施

- 年齢や体力等に応じた実施機会の提供が必要。
- 経済的負担を軽減するための施策、身近な場所で気軽にウインタースポーツを実施できる環境の整備も重要。
- 競技によっては市民ニーズに対応できる施設環境が整っていない等の阻害要因の改善、施設の利用率向上に向けた情報発信が必要。
- 子どもたちの体験機会の充実、子どもにとっても身近な実施環境の整備が必要。

スポーツボランティア

- スポーツボランティアの実施率向上には、好きな種目のボランティアが身近な場所で気軽に参加できること、ボランティアに関する情報の幅広い周知が重要。
- 学生などの若年層へのアプローチも効果的。

【目標 2 関連（障がい者スポーツ・スポーツ観戦・地域、経済の活性化）】

障がい者スポーツ

- より市民ニーズに応じた障がい者スポーツに取り組みやすい環境の整備等、一層の普及促進を図る必要性。
- 障がいの有無を問わず障がい者スポーツに関わる機会の創出、情報の周知、広報も必要。

スポーツ観戦

- プロスポーツチーム等と連携した観戦機会の創出や市民ニーズに応じたきっかけづくり等が必要

スポーツツーリズム

- 更なる地域の活性化等のためには、新たなスポーツツーリズムの推進が必要。

【目標3関連（さっぽろの魅力発信・ウィンタースポーツ拠点都市への発展）】

さっぽろの魅力発信

- アクションスポーツやパラスポーツの大会開催等により、更なる集客や交流人口の拡大を図ることが必要

ウィンタースポーツ拠点都市への発展

- ウィンタースポーツの大会開催や環境整備の推進が重要

【オリンピック・パラリンピック招致活動の総括（概要）】

- オリンピックへの不信感を払拭し、世代を問わず誰もが大会開催の意義や効果をイメージできるような明確なメッセージが必要であった
- 行政主導での招致活動ではなく、市民・企業等の民間が主導となり関係団体を巻き込んだオールジャパン体制を構築していくことが必要であった

<招致活動の効果>

- ① 国際スポーツ大会の開催 ② 市民・企業等との協働 ③ まちづくりの加速

世界屈指のウィンタースポーツシティの実現へ

第4章

第2期札幌市スポーツ推進計画において取り入れる視点

1 第3期スポーツ基本計画

国の第3期スポーツ基本計画の中から、次の施策・方向性を参酌します。

- (1) 多様な主体におけるスポーツの機会創出
- (2) スポーツによる健康増進
- (3) スポーツの成長産業化
- (4) スポーツによる地方創生、まちづくり
- (5) スポーツを通じた共生社会の実現
- (6) スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」

2 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

札幌市の目指すべきまちの姿やまちづくりを実現するため、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンから次の視点を取り入れて策定しました。

(1) 健康寿命の延伸	(3) 地域・経済の活性化
(2) 共生社会の実現	(4) ウィンタースポーツ振興

1 基本理念

スポーツの力でまちの未来を切り拓く

2 3つの目標

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

市民誰もが、一人一人のニーズに合わせて気軽にスポーツに参加し、楽しむことで、生涯にわたって心身の健康が増進され、活力に満ちた生活を送れることを目指します。

目標2 ひととひとがスポーツでつながる共生のまち

年齢や性別、障がいの有無、国籍等を問わず、市民が多様な形でスポーツに共に参加することができ、スポーツを通して関わり合うことで、相互に理解・尊重し合える社会の実現を目指します。

目標3 スポーツによりにぎわいがあふれているまち

多種多様なスポーツ大会が開催されるなど、世界からスポーツ都市として注目されており、国内外からスポーツ目的の人が集まることによって、地域・経済が活性化することを目指します。

3 成果指標と目標数値

基本理念・目標の実現のため、具体的な成果指標を設定し、その目標数値を定めます。

成果指標		現状値	目標値
		令和4年度 (2022年度)	令和15年度 (2033年度)
① スポーツ実施率	20歳以上・週1回以上	57.0%	70.0%
	障がい者・20歳以上・週1回以上	53.6%	60.0%
② ウィンタースポーツ実施率（18歳～49歳・年1回以上）		18.9%	30.0%
③ 直接スポーツ観戦率（18歳以上・年1回以上）		32.3%	50.0%
④ スポーツ目的の来札観光客数（道外・海外）		236,000人	1,000,000人
⑤ スマイル・サポーターズ登録者数		1,070人	2,000人
⑥ 強化指定選手に選出されるアスリートの育成数		12人(延べ)	50人(延べ)

1 施策体系

第5章で掲げた3つの目標を達成するため、8つの方針と19の施策を定めています。

3つの目標		8つの方針		19の施策		関連目標			
目標1	スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち	1	誰もがスポーツに参加できる機会の創出	1	子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者のスポーツ参加を促進します	目標2			
				2	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります	目標2			
				3	地域主体のスポーツ活動を支援・促進します	目標2			
		2	多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実	4	身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます	目標2			
				5	市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます	目標2			
		3	世界で活躍するトップアスリートの輩出	6	アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組みます	目標2	目標3		
				7	アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実します	目標2	目標3		
		目標2	ひととひとがスポーツでつながる共生のまち	4	障がい者スポーツの推進	8	障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します	目標1	
						9	障がい者スポーツの実施環境を整備します	目標1	
5	スポーツを通じた交流機会の創出			10	スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します	目標3			
				11	スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します	目標3			
6	スポーツをみる機会の充実			12	トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します	目標3			
				13	市民のスポーツ観戦機会を充実します	目標3			
目標3	スポーツによりにぎわいがあるまち	7	スポーツを通じた地域・経済の活性化	14	国際大会やスポーツイベントの開催・誘致を促進します	目標2			
				15	札幌の特色を生かし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します				
				16	札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します				
		8	誰もが気軽にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実	17	ウィンタースポーツを体験できる機会を充実します	目標1	目標2		
				18	ウィンタースポーツ実施に向けた支援を充実します	目標1	目標2		
				19	ウィンタースポーツ拠点を構築します	目標1	目標2		

2 目標達成に向けた方針・施策

方針1 誰もがスポーツに参加できる機会の創出

子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者など、様々な主体が、それぞれの目的・状況に応じてスポーツに取り組める機会を創出します。

施策①子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者のスポーツ参加を促進します

・子どものスポーツ参加のきっかけづくり【レベルアップ】

ウィンタースポーツ塾の開催など、子どもを対象とした事業を展開し、子どもの頃から様々な運動に取り組むことができるきっかけをつくります。

・冬季における子どもの運動機会の増進【新規】

冬季における運動機会の確保及び増進のため、子どもたちに対してスポーツや身体を動かすことの楽しさを体感できる機会を提供します。

・地域スポーツ指導者の中学校への派遣【レベルアップ】

中学校のスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

・スポーツに対する意識の改善【継続】

日常生活において気軽に取り組めることもスポーツであるという認識の普及や市民のスポーツ意識の啓発を図るため、地下鉄駅の地下コンコース内に歩行による消費カロリー、スポーツ標語などのサインを掲示します。

・ウォーキングの推進【レベルアップ】

仕事や家事、育児などで時間がとれない方や運動が苦手な方にとっても、気軽に取り組めるウォーキングをきっかけとした運動習慣づくりのため、アプリを活用したウォーキングイベントなどを開催します。

・老人福祉センター等における健康増進の場の提供【継続】

・新しいタイプのスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）の育成【新規】

健康づくりや競技力の向上など、様々な市民ニーズに応じたスポーツ参加の場として、多様な主体が連携した新しいタイプのスポーツクラブの育成について、モデル事業の実施等の取組を行い、本格的な事業実施に向けた検討を進めます。

施策②スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

・運動習慣等の獲得の推進【新規】

コロナ禍による運動不足や生活習慣病予防のため、市民が身体活動量や歩行時間を増加させるなど運動習慣が身に着くよう、健康教育事業や健康フェア等の測定会・パネル展、市民健康教育・地域健康教室の実施や、ウォーキング等を中心とした運動機会を提供します。

・ウェルネス推進事業【新規】

健康寿命延伸を図るため、産学官連携により市民の健康意識の向上や健康行動の変容を促す取組を実施します。

・冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供【継続】

施策③地域主体のスポーツ活動を支援・促進します

・運動部活動の地域移行に向けた体制整備【新規】

運動部活動の地域移行に向けて、将来にわたり子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保できるよう、学校や競技団体等と連携して、地域におけるスポーツ活動の体制を整備します。

・体育振興会などの地域スポーツクラブの活動支援【継続】

地域スポーツクラブとしての役割を担う体育振興会の活動を支援し、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力を行うとともに、体育振興会主催のイベントが活発に行なわれるよう、助言・指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

方針2 多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実

スポーツ施設等を有効活用し、市民誰もが目的・競技レベル・生活習慣などに合わせてスポーツに取り組めるよう、多様なニーズに対応したスポーツ実施場所の確保・充実を図ります。

施策④身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます

・将来を見据えたスポーツ施設の整備【レベルアップ】

札幌市スポーツ施設配置活用実施方針等に基づき、今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の整備を行うため、月寒体育館・美香保体育館の更新や大倉山ジャンプ競技場の改修、モエレ沼公園野球場や（仮称）新琴似市民運動広場の整備を実施します。

・札幌ドームの活用促進【レベルアップ】

全市又は全道規模のアマチュアスポーツ大会を開催する際に利用料金を低廉な金額とすることにより、市民が札幌ドームを直接利用できる機会を創出します。

また、市民がスポーツを始めるためのきっかけづくりとなるよう、プロスポーツチームや施設管理者と連携して、札幌ドームでの新たなイベントの企画・実施等を行います。

施策⑤市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます

・スポーツ施設供用時間の延長の検討【レベルアップ】

市民やスポーツ団体のニーズを踏まえ、必要に応じてスポーツ施設の供用時間の延長について検討します。

・スポーツ施設におけるアスリート枠・障がい者スポーツ枠新設の検討【新規】

競技力に応じた利用枠の新設や競技設備・備品の導入、障がい者スポーツの裾野拡大に向けた利用枠の新設などを検討します。

・アクションスポーツなどの練習施設整備補助【レベルアップ】

若い世代を中心に人気が高い、アクションスポーツなどの施設を民間企業等が整備する際に、整備費の一部を補助することで、市民がスポーツに親しめる環境を整えるとともに、スポーツ活動の場を市民へ提供します。

・札幌ドーム周辺活用の推進【レベルアップ】

高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」を整備します。

方針3 世界で活躍するトップアスリートの輩出

札幌から世界レベルのトップアスリートの輩出に向けた発掘・育成の取組を推進するとともに、アスリートの活躍を支援し、市民のスポーツ機運向上を図ります。

施策⑥アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組めます

・スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘・育成【レベルアップ】

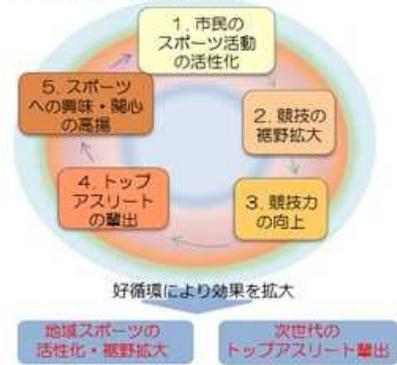
体力測定会等により優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、競技へとつなげていくとともに、各施設の特性を生かし、日常的なアスリートからの指導や海外合宿、合同トレーニング等を実施することで、世界で活躍する次世代のトップアスリートを育成します。

スポーツ施設の戦略的活用

札幌市では、これまでも、施設管理者・競技団体・施設を活用した事業の実施主体が一体となってスポーツ施設を戦略的に活用し、幅広い層に対するスポーツ参加機会の提供や競技レベルの向上につながる取組を行ってきました。

引き続き、スポーツ施設を戦略的に活用することで、市民の健康増進、地域スポーツの活性化や裾野拡大、次世代のトップアスリートの輩出などの多様なニーズに応じた様々な取組を進めていきます。

【戦略的活用による事業効果イメージ】



・総合型HP・SCや大学、アスリート、競技団体等との連携強化【継続】

東京にあるHP・SCや大学との連携強化の取組やアスリートへのサポート体制の構築、サポートに必要な機能などについて検討します。

施策⑦アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実します

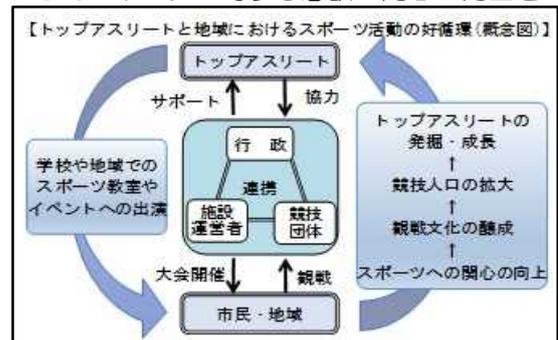
・アスリート・オリンピックの活用【レベルアップ】

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団、地域イベントにアスリートやオリンピックを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

・ウィンタースポーツインストラクターの派遣【レベルアップ】

市立中学校・中等教育学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習を支援するため、インストラクターを派遣します。

また、市立小学校の歩くスキー体験学習に対してインストラクターを派遣します。



方針4 障がい者スポーツの推進

障がい者スポーツをより一層推進していくため、障がい者スポーツができる場の充実や、障がいの有無を問わず、障がい者スポーツに関わる機会の創出により、障がい者スポーツへの参画を促進します。

施策⑧障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します

・障がい者スポーツ体験会の実施【レベルアップ】

様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図ります。

・障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催【レベルアップ】

障がいのある方を対象としたウィンタースポーツの裾野拡大を目的として、バイスキー・シットスキー・チェアスキーなどの指導者養成講習会及び体験会を開催

施策⑨障がい者スポーツの実施環境を整備します

・障がい者スポーツセンターの設置検討【新規】

障がい者スポーツの普及振興や競技力向上を図るための活動拠点として、障がい者スポーツセンターの設置について検討します。

・学校開放における障がい者スポーツ優先枠の設定【レベルアップ】

障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、学校開放における障がい者スポーツ優先枠を設定します。

障がい者スポーツセンターとは

【長居障がい者スポーツセンター】

障がい者スポーツセンターは、障がい児・者のスポーツ参加・健康増進のための、障がい者専用、あるいは障がい者が優先的に利用できるスポーツ施設です。



<札幌市が目指す障がいのある方のスポーツ環境>

- 誰でもスポーツを楽しむことができる環境
- 裾野拡大から競技力向上まで一貫したサポート
- 障がいの有無に関わらずスポーツに触れる機会の創出
- 医療・福祉・教育等の関係機関と連携した情報拠点の構築
- 雪のまち札幌市の特性を活かした冬季障がい者スポーツ環境の充実
- 障がいのある方とない方がスポーツを通じて交流する機会の充実

<参考：札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会「令和4年度障がい者スポーツセンターの設置に係る検討結果（最終報告）」>



方針5 スポーツを通じた交流機会の創出

スポーツを通じて多様性の理解、尊重を深めていくため、大規模な国際大会をはじめ、様々なスポーツ大会やイベントなどにおける、国際交流・ボランティア活動・地域交流等を促進し、人々の交流機会を創出します。

施策⑩スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します

- ・国際大会の開催を契機とした国際交流の実施【継続】

施策⑪スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します

- ・スポーツボランティアの活動及び研修機会の充実【レベルアップ】
- ・指導者講習会の開催【継続】

方針6 スポーツをみる機会の充実

札幌市が蓄積してきた多くの国際大会の開催経験やトップスポーツチームとの連携体制を生かし、市民が多種多様なスポーツを観戦する機会の充実を図ります。

施策⑫トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します

- ・プロスポネット SAPPORO による取組【レベルアップ】

「プロスポネット SAPPORO」と連携・協力した観戦機会の充実により、「みる」文化の醸成を図るとともに、観戦のきっかけとなるスポーツイベントなどを開催します。

プロスポネット SAPPORO
「スポーツの力でまちを元気に！プロスポーツのあるまち SAPPORO」

札幌市は4つのプロスポーツチーム（北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道・エスポラーダ北海道）と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めています。



協力
内容

- ・スポーツの裾野の拡大、「みる」文化の醸成
- ・スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- ・シティプロモートやスポーツツーリズムの推進

・トップレベルの試合や国際試合を開催する際の広報・シティドレッシングの実施【レベルアップ】

札幌で開催されるトップレベルの試合に併せて、札幌駅前通地下歩行空間の壁面や柱に広告を掲示するほか、シティドレッシングを行います。

施策⑬市民のスポーツ観戦機会を充実します

- ・親子の無料招待の実施【新規】
- ・パブリックビューイングの実施【新規】
- ・国際大会などの誘致・開催【レベルアップ】
- ・アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催【レベルアップ】

アクションスポーツの推進

エクストリームスポーツの中で、都市での開催が可能な種目がアクションスポーツです。「エクストリーム」という言葉が極度・先端・過激を表わすとおり、速さや高さを極限まで追求し、過激で華麗な離れ技を競い合うスポーツです。代表的な競技としてBMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンスなどがあります。東京2020大会における日本人選手の活躍もあり、近年若い世代を中心に人気が高まっています。

札幌市においては、このような新しいスポーツへのニーズに応えるため、大会の誘致・開催や、施設整備の支援などに取り組み、幅広い世代のスポーツ参画人口の拡大に取り組んでいきます。



方針7 スポーツを通じた地域・経済の活性化

札幌の豊富なスポーツ資源を生かし、国際大会等の誘致・開催や札幌の特色を生かしたスポーツ・観光コンテンツの活用・造成などを行い、地域・経済の活性化を図ります。

施策⑭国際大会やスポーツイベントの誘致・開催を促進します

- ・国際大会などの誘致・開催（再掲）【レベルアップ】
- ・海外代表合宿の誘致【継続】

施策⑮札幌の特色を生かし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します

- ・マラソンツーリズムの推進【継続】
- ・スキープロモーションの実施【継続】

施策⑯札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します

・札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ【新規】

札幌オリンピックミュージアムの魅力の向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。

・大倉山ジャンプ競技場の機能向上【新規】

大倉山ジャンプ競技場で引き続き国際大会を誘致するため、国際競技規則に適合するための改修を実施します。

・スキーを始めとしたウィンタースポーツ体験の機会創出【レベルアップ】

国内外の観光客が、都心部のオープンスペースやスキー場などの郊外型観光資源において、気軽にウィンタースポーツやスノーアクティビティなどに親しむことができるよう、雪のまち札幌ならではの観光コンテンツを造成します。

方針8 誰もが気軽にウィンタースポーツを楽しむことができる環境の充実

ウィンタースポーツをより一層振興していくため、ウィンタースポーツ実施に係る経費の支援やウィンタースポーツに気軽に取り組める場の創出、環境保護や気候変動対策への意識の醸成、世界屈指のウィンタースポーツシティへの発展に向けたシティプロモートと環境整備を推進していきます。

施策⑰ウィンタースポーツを体験できる機会を充実します

・ウィンタースポーツ塾の開催【レベルアップ】

小学生を対象として、様々なウィンタースポーツが体験できる機会を創出し、競技人口の裾野拡大を図ります。

・企業等と連携したウィンタースポーツイベントの開催【新規】

アスリートが所属する企業と連携した体験会等の開催や、企業が開催するイベントに対する広報支援などを実施します。

・施設の更新に併せたスポーツ実施環境の改善【レベルアップ】

老朽化した美香保体育館の更新に併せて、新たに通年型スケートリンクと専用カーリングリンクを備えた施設を整備します。

・歩くスキーの普及振興【継続】

・ウィンタースポーツ競技大会の開催支援【レベルアップ】

スキージャンプワールドカップ大会などの観戦環境の充実に取り組み、ウィンタースポーツ観戦者の増加を図ります。

ウィンタースポーツ観戦文化の醸成

札幌の特有の文化であるウィンタースポーツの観戦文化の醸成と裾野拡大を図るため、スキージャンプワールドカップ大会などの観客を増やすことを目的に、平成30年度より観戦環境の充実に取り組んでいます。



【観戦環境の充実に向けた取組】

- ・MC・DJによる会場の盛り上げ
- ・大型ビジョンに選手プロフィール等を掲載
- ・選手出演のPR動画の作成
- ・PRチラシ・ポスターの作成
- ・「プロスポネット SAPPORO」との連携企画
- ・選手によるトークショーの開催
- ・スノースケート・キッズスノースライダー体験コーナーの設置
- ・飲食ブースの展開

今後もウィンタースポーツの普及振興に向けて、更なる観客増を目指し、市民や国内外からの観光客など、これまで来場したことがない方々やウィンタースポーツに関心がない方々にもスキージャンプなどの魅力を広く知っていただき、実際に会場に来ていただけるよう取り組んでいます。



施策⑱ ウィンタースポーツ実施に向けた支援を充実します

・ ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成【レベルアップ】

市内の小学生を対象にスキーリフト料金を、市内の小学生及び中学生を対象にスケート場の貸靴料金を助成します。また、市内の未就学児及びその親を対象にスキー用具のレンタル料金を助成します。

・ スポーツ練習施設の整備補助【レベルアップ】

ウィンタースポーツ施設を民間企業等が整備する際に、整備費の一部を補助することで、市民がウィンタースポーツに親しめる環境を整えるとともに、ウィンタースポーツ活動の場を市民へ提供します。

施策⑲ ウィンタースポーツ拠点を構築します

・ スノーベースタウンSAPPOROの促進【新規】

札幌・定山溪をスキヤーのベースタウンとし、市内及び周辺のスキーリゾートとの周遊を促進するため、インバウンド向けコンテンツの開発やモニターツアーの実施、情報誌や様々なメディアを活用した情報発信を行います。

・ スノーリゾート推進事業【新規】

スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略に基づき、スノーリゾートとしてのブランド化に向けて、市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携事業支援、冬季観光コンテンツの充実等に取り組めます。

・ 札幌°アソ、パ°アソを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育【レベルアップ】

第7章

計画推進のための取組

1 市民や関係団体との協働

関係する様々な主体と、本計画における取組を協働して進めていくことで、着実にスポーツの振興を推進していきます。

<スポーツ推進のための協働団体>

行政（札幌市）、市民、体育振興会及びスポーツ推進委員、スポーツ少年団及び競技団体、札幌市スポーツ協会、札幌市障がい者スポーツ協会、さっぽろグローバルスポーツコミッション、トップスポーツチーム、企業、大学など。

※その他、市の施設を運営する株式会社札幌ドームや株式会社札幌振興公社等の指定管理者、スポーツ施設を運営する民間事業者などとも協力していきます。

2 将来を見据えた施設の配置活用

将来にわたって市民がスポーツに親しめる環境を維持するためには、中長期的な視点をもって、計画的な施設更新や長寿命化を進め、更新時期の分散化などを図っていく必要があります。

令和3年5月に策定した「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」に基づき、持続可能な施設配置や多様性のあるスポーツ環境を実現し、将来にわたって市民の誰もがスポーツに参画できる機会を創出していきます。

3 計画の進行管理

計画の進捗状況は、札幌市スポーツ推進審議会に報告し、日頃から取組等を発信します。

